

# 令和5年度 伊那市立高遠北小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
なかよし学校 がんばり学校	「なかよし学校・がんばり学校」 ① なかよしの輪を広げます ② 学び合い、発言力と表現力を高めます ③心と体を鍛えます
	今年度の重点目標
	① なかよしの輪を広げます ・自分から進んであいさつし、きちんと返事のできる子 ・様々な人々との体験・交流を通して視野を広げていく子 ・学校や郷土を愛し、自分の住む地域を語る子 ・友だちの良さを認め、自分の長所を伸ばしていく子 ・友だちを理解し、お互い大切な仲間として接していく子  ② 学び合い、発言力と表現力を高めます ・互いの思いや考えを聞き合える子・自分の思いや考えを進んで発言する子 ・相手の考えを受け止め、自分の思いや考えを語る子 ・時や場に応じて自分の言葉で語る子・分かるまでねばり強く学習する子  ③ 心と体を鍛えます ・進んで読書する子・運動に親しみ友だちと励まし合いながら体を鍛える子 ・健康に留意し、自分の体・命を自分で守ろうとする子 ・場を整え、心地よさを感じ合える子

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○学校教育目標の具現のため左記を中心に児童の指導に取り組んできた。少人数のよさを生かし、学年の枠をこえて様々な場面で関わりをもち、なかよくする姿が見られた。 ○「協力タイム」を取り入れ、子どもたち同士の協働学習を大切に授業研究に取り組み、日常の授業改善を行ってきた。各教科にわたって表現する学習を大切に、相手意識をもって伝えたり、音楽表現したり、作品で表したりすることができた。また、個の実態に寄り添った指導やくり返しの指導を行うことで、児童の学力の定着や向上にもつながってきている。地域の方のご指導や体験的な学習を行う機会をもつことができ、子どもたちが地域や地域の方との関わりを深める良さを感じている。		
①○登校時に、職員室へ全児童が元気に挨拶をすることができている。決まった場面だけでなく、自分から進んで挨拶することへの意識をより高めたい。 ○遊びや縦割り班の活動を通して、学年をこえて仲良くする姿が見られている。 ○児童会でやっている毎月の「いいとこさがし」や、行事後のメッセージのやり取りを中心に、友だちの良さや頑張りを目を向けることができるようになってきた。 ○地域に出かけたり地域の方と関わったりする活動を通して、高遠北小周辺のよさや地域の人の働く姿の素晴らしさを実感することができた。	A a	○代表委員会があいさつ運動を教室訪問しながら行うことで、少しずつ児童同士の挨拶も日常化してきているので、継続できるとよい。 ○道徳や教育活動全般を通して、人権感覚を磨き、思いやりの心を育てていく。友だちが悲しい思いをしていないか、自分の言動の振り返りを大切にさせていく。 ○少人数での関わりの中で、固定した物の見方や考え方にならないよう、積極的に外に出かけて人や地域との関わりを持ち、広い視野を持って学習・活動が行えるように考えていく。学校内でも、連学年での活動を大切にしていこう。
②○相手意識を大切に、各教科で発表等表現する場面を多くもち、力がついてきている。 ○協力タイムを設け、「みんなが分かる」「みんなで頑張る」時間を大切にしてきた。分からないときに友だちに「教えて」と言える姿も見られるようになってきた。 ○意見をしっかりと言える児童もいるが、言えない児童の考えも大切にしていこう。	A b	○友だちと交わした意見をもとに、さらに自分の考えが深められるような場の設定や学習カードの工夫を考えたい。 ○少人数の学習の中で教師との対話だけに偏らないよう、友だちとの関わりを工夫し、多様な見方や考え方を知って、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
③○児童の様子などから、健康課題をみつけ、必要な指導を考えることで、子どもたちが「自分の健康・体」に意識が向くように関わることができた。 ○学校全体で活動や目標を設定し取り組むことができていた(マラソン・縄跳び等)。 ○ノーメディアデーや情報モラル講演会などで、生活を見直す場面があったが、個人差がある。	A b	○バス通のため、児童の体力向上には更に意識を高めていく必要を感じている。外遊びの充実、体を動かす時間の工夫など、目標を設定し全校で取り組めるよう努めたい。 ○基本的な生活習慣(早寝早起き、朝ご飯)やメディアとのつき合い方など、家庭とも連携を図り呼びかけていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○楽しく成就感のある教育課程の展開	○個々の児童につける力・伸ばす力を明確にした計画的な教育課程を展開しようとしたか。
		○児童の考えを大事にする展開	○児童会や行事ほか、学校の教育課程を児童の考えを中心にして展開しようとしたか。
	学習指導	○「分かる授業」の実践	○「ねらい・めりはり・見とどけ」の3観点を意識した授業展開をしようとしたか。
		○表現力の育成	○児童の表現力を高めるための授業展開ができたか。
生徒指導	○児童理解に基づいた個々の児童への指導	○学年の枠を超えて、全職員で全児童を育てることができたか。	
	○人権感覚の育成	○学校生活全般を通して、豊かな心の育成に努め、いじめの実態の把握及びいじめに対する措置が適切に行われたか。	
学校運営	安全	○安全の確保	○安全指導がきめ細やかになされ学校の安全が確保できたか。
	地域との	○家庭・地域の方との情報交換	○通信などを通して学校の様子を積極的に知らせたり、情報交換をしたりして、家庭ときめ細やかな連携をすることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○学習カードや教材、ICTの活用、活動、個別支援などを工夫し、子どもの実態や願いに寄り添うよう努めた。「できた・分かった」を大切に、更に挑戦し高めたい気持ちにも応えていく。 ○児童の学習意欲を高めるために、個別に目標を立てたり、成長を具体的に言葉で伝えたり目で見える形で示したりするように心がけている。	A b	○今後も引き続き、あらゆる場面で個に応じた支援を丁寧に行っていく。 ○授業改善を目指した教科研究とは別に、学力向上のための取り組みを考えていく部会をもち、授業展開を考えていく。 ○教材研究の時間を確保する。
○児童の「○○したい」という願いをできるだけ取り上げ、活動を組み立てるように心がけた。縦割りの活動では6年生が中心となり全校をまとめる姿が多く見られた。 ○児童会や各行事で、支援が必要な場面もあったが、児童の考えを取り入れて企画を展開させることができた。子どもたちからの提案が多く出された。	B a	○児童会活動などは毎年似たような活動にはなるが、その年の児童の考えをきちんと反映させたものにするためにも、考える時間をきちんと確保するようにしていく。また、活動をきちんと振り返り、成果や反省を自覚して次の活動につなげることを大切にしていこう。
○本時のめあてを書き、個人追究から全体への広がり意識した授業展開に努めた。お互いに協力し合い相談し合う時間をもうけたことで、考えの深まりが見られた。 ○まとめの時間には、子どもの言葉でまとめられるようにした。	A b	○全校研究授業や一人一公開をはじめ、お互いの授業を気軽に参観しあい、互いに学び合うことを通じて、授業力の向上に努めることを継続していく。 ○全職員で教科研究の方向を意識し、学年の見通しをもって指導にあたっていく。
○相手意識をもつことを常に意識させて取り組んだ。伝え方を考えながら発表や創作活動を行うことを通じて、表現力を高めることができた。 ○図画工作では、小規模特認校教育コーディネーターと連携して、メリハリのある学習活動を行い、子どもたちが表現することに自信をつけた。	B b	○校内音楽会や終始業式の発表などの行事はもちろん、日常生活で「相手に伝えること」を意識した場を設けて、経験を積んで自信をつけさせていく。 ○小規模特認校教育コーディネーターと連携し、長期的な見通しをもって年間計画をたて、図画工作の学習活動に取り組んでいく。
○情報共有の機会を多くもつことができた。常に情報交換をし、支援体制や指導の方向を決め出すことができ、また、児童の良い姿もたくさん伝え合うことができていた。 ○学年の枠を越え、全職員で子どもたちに声をかけ、たくさん目で見守り支援することができている。	A a	○今後も全職員で情報を共有していくと共に、校内支援会議を設け、指導・支援の方向を話し合い、統一した指導を行っていく。 ○情報交換をして決まった支援方向を、全職員で共有できるようにする。
○なかよし旬間を設け、校長講話・福祉体験などを行った。 ○アンケートを元に、担任と相談する時間を確保し、話をしっかりと聞いた。 ○トラブルの解決では、互いの気持ちを考え伝え合うこと、困った時には誰かにすぐ話をすることを大切に指導に努め、小さなことでも保護者と連絡を取り合った。	A a	○困ったことがあればすぐに話せる場づくりを常に意識し、児童に呼びかける。 ○縦割り班活動や交流活動などを大切に、相手意識を持ち、相手の立場に立った言動ができるように、見守り、支援・指導をすると共に、教師自身の人権感覚も高めていく。 ○アンケートを元にした相談の時間を確保していく。
○通学班会では、季節や児童の実態に合わせて毎回丁寧な指導が行われた。また、バス通学については、バス停での待ち方やバス内のマナーや約束を指導した。 ○安全点検では、様々な危険の可能性を考えながら2人体制で行った。 ○避難訓練・交通安全教室・引き渡し訓練など、様々な安全に関わる学習の場で、事故や災害への意識が高まるよう努めてきた。6月2日の大雨の折には、訓練通りにはいかなかったが、職員で連携し、児童を安全に帰宅させることができた。	A a	○一斉下校時や通学班会での全児童に向けての安全への呼びかけはとても有効なので、大切なことは機を逃さずに指導していく。 ○日常から校舎内外、通学路やバス停付近を意識して見回り、危険の把握に努める。 ○けがや病気の対応には、丁寧に確認・対応し、保護者や関係機関への連絡を迅速に行うよう努めていく。 ○避難訓練では、いろいろな想定を考え行動できるようにしていく。
○学級だより・学校だより・保健だより、図書館だよりなど、様々な通信を通して、児童や学校の様子を伝えたり、家庭や地域へのお知らせなどを伝えたりできた。また、連絡帳や電話などで、個別の連絡や対応も丁寧に行うことに努めた。 ○ホームページの更新し、学校だよりでは伝えきれない内容を載せるようにした。 ○「北小子どもを守る会」は、規模を見直して行い、活発に意見交換ができた。	B a	○今後も、学級通信や学校だより・ホームページを通して、学校の様子を家庭や地域に発信していく。 ○地域の方との情報交換の場や地域とのつながる機会を確保していく。

	<b>連携</b>	○地域の素材・人材の活用	○地域の素材を生かした教材や保護者・地域の人々に参画してもらい授業や活動をすることができたか。	○総合的な学習の時間、花育、地域探検、地域を学ぶ日では、地域の方に講師としてご指導いただくことができた。地域に出かけたり来校していただいたりして、学習と交流を深めることができた。	A b	○今後も本校の特色ある活動が続くよう、職員間の情報共有や引き継ぎをきちんと行っていく。また、「学校評議員会」や「北小子どもを守る会」の方に学校運営についてのご意見をいただきながら、地域とのつながりを大切にしたい学校運営を行っていく。
	<b>研修</b>	○職員の自覚	○服務規律や綱紀についての自覚は高くもっていたか。	○非違行為は絶対に起こさないという意識を継続してもてるよう、職員会時に短時間の研修の時間を設け、事例を読んだり、小グループでの話し合いをしたりした。学校長からの指導も受け、セルフチェックシートで毎月、自分自身を振り返るようにした。	A a	○非違行為防止については、意識を継続していくことが大切となる。引き続き、職員会議での研修の時間を位置づけ、事案等を取り上げ、全職員で確認していく。また、日頃から職員間で何でも話が出来るような風通しの良い職場づくりをしていきたい。
		○自己研鑽・研修の工夫・改善	○自ら求めて、研修に臨むことができたか。(自己研修を含む)	○保育園参観は、保小のつながりや子どもの育ちを知る上で参考になっている。 ○若い先生を中心にセンター研修に積極的に参加した。 ○ICTに関わる様々な研修を行い、AIドリルの使用や授業でのより有効な活用について、サポーターの支援をいただきながら継続して研修している。	A b	○地域の方を講師にしたり職員の得意分野を生かしたりして、教材研究につながる校内研修を設定していきたい。 ○また、同僚の姿から学び合う環境作りをしていく。